



つがるの昔っこ 33 (昔話)

猫屋敷③ (標準語)

国土交通省 東北地方整備局
岩木川ダム統合管理事務所
イラスト：やざわ ゆな
カラーリング：みやかわ みなみ

宿屋へ帰って紙包みを開けて見ると、中から十枚の小判が出てきました。

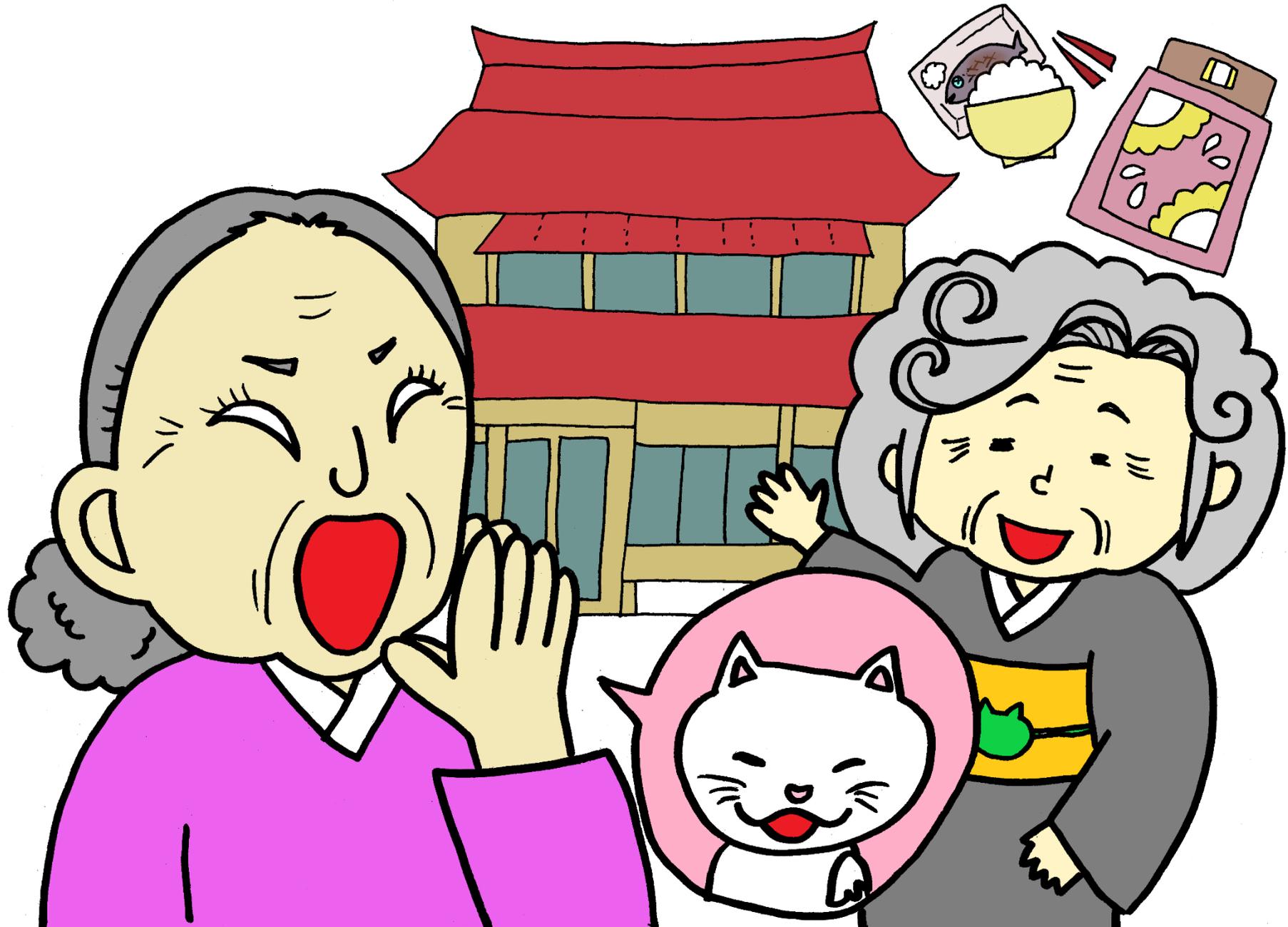


それを見た女将のお杉は、お梅から訳を聞いて
『あらあ、それじゃあ私も山へ行こうかな。女中のお前でも小判十枚もらえるなら、
主人の私だと百枚もらえるかもしれないね』
お杉は大急ぎで支度をして、山へ登って行きました。
すると、お梅の言うとおりの大きな屋敷に到着しました。



『もしもし、私は可愛がっていた猫のタマに会いに来ました。今晚一晩泊めてください』
と大声で叫びました。

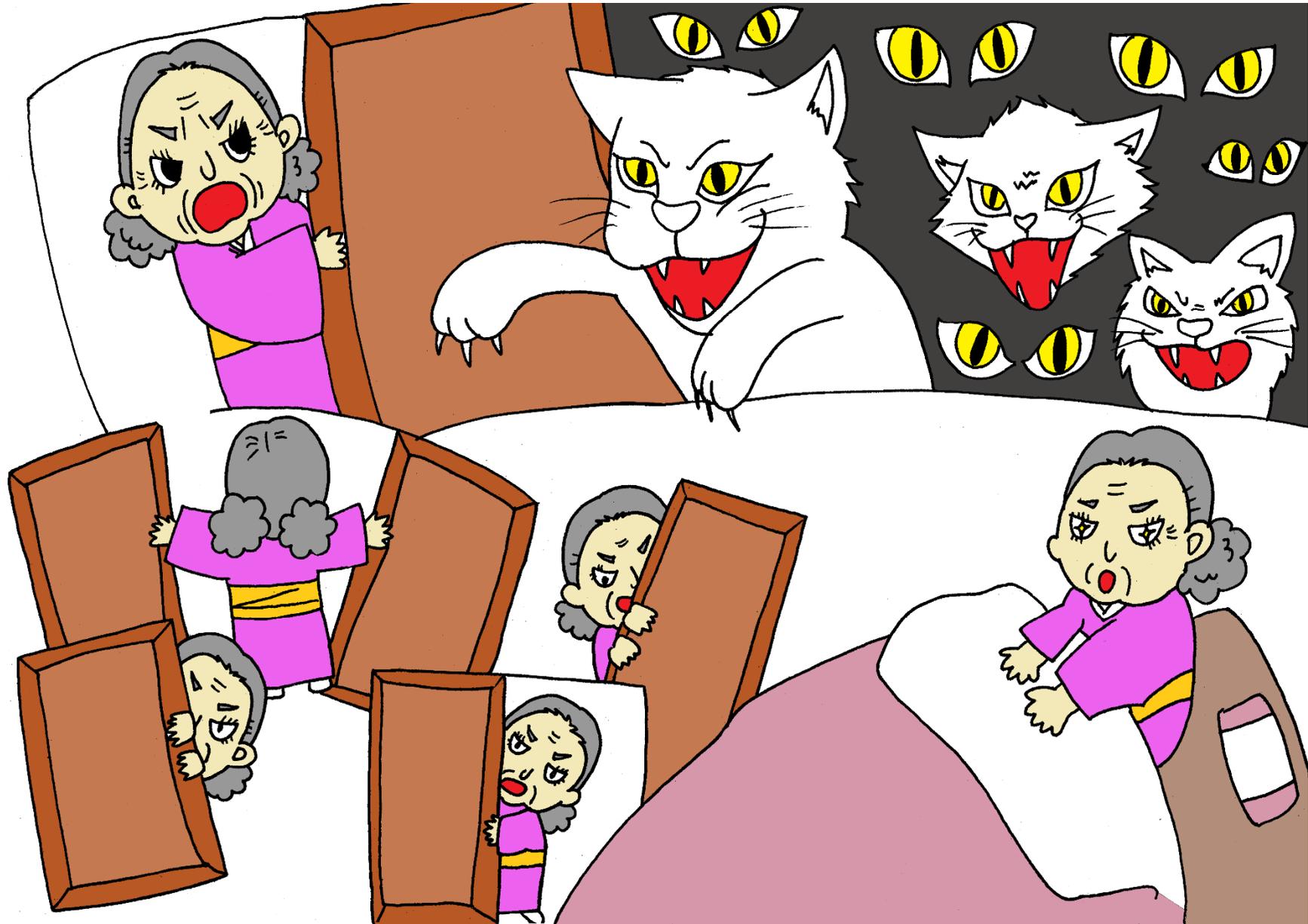
すると中からお婆さんが出てきて中へ案内してくれました。
ご飯も食べさせてくれ、布団を敷いて寝かせてくれました。



欲張りのお杉は、夜更けになると起き出して『小判はどこかな、小判はどこかな』と次々と部屋を開けて見て回りました。

最後に廊下の突き当たりの部屋をガラッと開けると、何百匹もの猫たちがらんらんと目を光らせて、こちらをにらんでいました。

猫たちはフーっと毛を逆立てて、今にも飛びかかってきそうでした。



もはや小判どころではありません。怖くて怖くて、ブルブル震えて、息が詰まりそうになりました。

すると、そこへ、宿屋にいたタマが入ってきました。

『あ！タマ、タマじゃないか。私、お前に会いたくてここへ来たんだ。さあ、一緒に帰ろう』
お杉は必死になって、タマへ話しかけました。



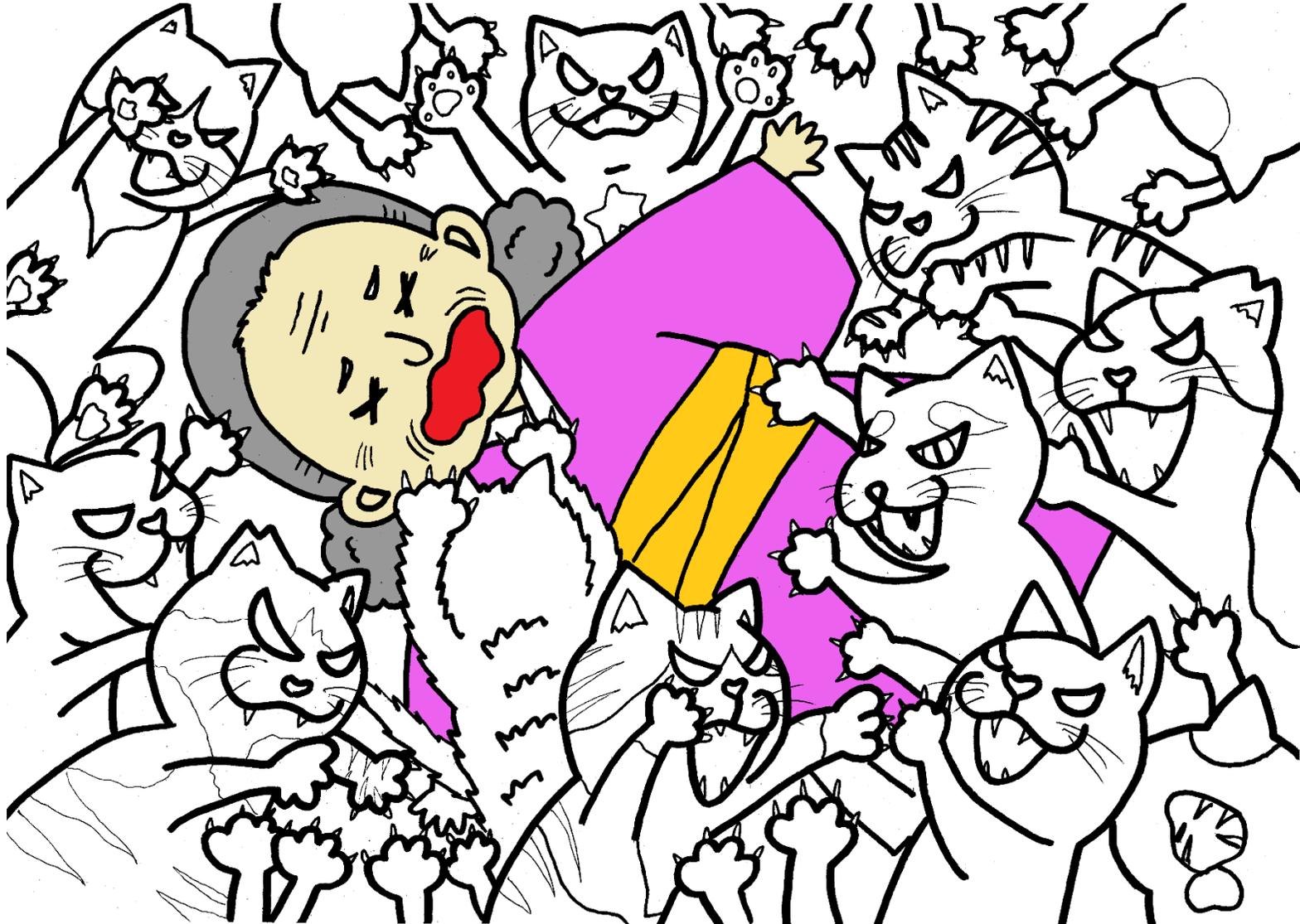
タマは、お杉をジロリとにらんで『何をしらじらしい。お前、よくも長いあいだ私をいじめてくれたなあ』と言って、一声大きく『ニヤアオオオオオオオ』と鳴きました。



すると、部屋の猫たちが一斉に『ギャーツ！』と叫んで、次々とお杉に飛びかかってきました。

お杉がどうなったか想像できますよね。

欲張る者と、他人や生き物を傷つける者は、最後はろくな死に方をしない…というお話でした。



おしまい